

研究構想シート	学校名	隠岐の島町立中条小学校
	氏名	橋本 健史
A 研究主題 夢中になって挑み続ける子どもの育成～児童が主体的に学びたくなる「しかけ」の工夫を通して～		
B 研究の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「考えてみたい」と思える授業づくりを通して、主体的に表現したり対話したりできる力を育成する。</li> <li>・児童が主体的に学習に取り組めるようにするために、何気なく行っている授業の工夫を教員間で共有し、論理的に整理する。</li> </ul>		
C 子どもの実態 授業中は意欲的に考えを發表したり、自分の力で課題を解決しようとしていたりする児童の姿が見られる。一方で、学習に対して受け身の姿勢で、友だちや教師が答えを導いてくれるのを待っている児童も多い。特に、授業中に自分の考えに自信をもって發表したり、根拠を明らかにしながら説明したりすることに課題が感じられる。 令和5年度の児童が回答した学校評価アンケートでは、「授業では自分の考えを持つことができた。」という項目に対し、「できた」が約53%（4～6年生のみ）、「自分の思ったことや考えたことを書いたり、話したりしようとした。」という項目に対し、「できた」が約50%（4～6年生のみ）という結果であった。自分の考えを持ち、それを書いたり話したりしようとする姿勢をさらに高めていきたい。	E 手立て・内容（研究仮説） 『主体的に学びたくなる「しかけ」』とは、教材の安定を崩すということであると考える。児童が強く表現したい気持ちになるためには、内容や構成に違和感を与えたり、「why」で問わずにあえて「which」で問うたりするなど、様々な工夫を加えることがある。教師からの問い返しやすれを生むゆさぶり発問などは、児童が思考を深めていくことに有効である。そのような自然と考えたくなる・話したくなるような授業づくりの研究を重ねていく。しかし、単に教材にしかけを作って、楽しくすればよいというものではなく、単元のねらいが達成されることが重要である。しかけがある授業を通して、児童が課題に対して受動から能動的な姿を引き出すことができる技をロジックでまとめていきたい。	D めざす子どもの姿 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを持ち、深め、主体的に表現しようとする姿</li> <li>・筋道を立てて考えたり、順序だてて考えたりする姿</li> </ul>
	F 検証方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科を中心に「しかけ」を用いた授業づくりを意識する。（『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』や『Which型課題の国語授業』を参考図書として共有する。）</li> <li>・各クラス担任は、年に1度以上、授業実践の報告を行う。</li> <li>・低・中・高学年から1本ずつ国語科の公開授業を行う。</li> <li>・年度末の児童評価アンケートにて、学習への主体性を問い、前年度と比較し成果と課題を検討していく。</li> </ul>	
	G 研究計画 R6 「しかけ」のある教材づくりを意識し、実践を重ねる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しかけ」のある授業づくりの実践例を校内で「実践報告」として蓄積させ、授業スタイルの共有を図る。</li> <li>・低・中・高学年から1本ずつ国語科の公開授業を行い、「しかけ」によって児童が主体的に取り組めるようになっていたかを検討する。</li> </ul> R7 他教科でも「しかけ」のある授業づくりを実践していく。	